

ああ、 結婚！

—婚活日記—

第32回

黒田長宏

<2024年8月1日>

私の性格丸出しで、今回も58号の締め切り通知が来たので早速提出してしまった。最初に57号と書こうとしたのが58号になっていた部分から送ってから気づいたのだが、煩雑にして迷惑をかけてしまうのは確実に私もカウントされる。そういう癖がずっとあるのだ。なんというせっかちなのか。それなのに結婚だけが遅くなりすぎてしまっている。もはや手遅れなのだろうか。現在パリオリンピックの真っ最中である。選手や審判の失態や判断ミスが続出している。人間らし

いと言えば人間らしいのだろうか。いや、やって良い事と悪い事はあるだろう。最初から開き直ったり、いいよいいよと慰めてはダメだと思う。私も甘い人生を続けているわけではあるが。この文章からも、結婚難の当事者となるような痕跡が現れているのだろうか。さあ、59回で起きることのスタートだ。子供はともかくと書くしかない先入観としての年齢が悲しいが、せめてこの連載中に結婚の奇跡がやってくれば、総合した文章内容はともかく、載せていただいていた甲斐があったというものだろうが、これを書いているこの現在、まるで微かな動きもなんにもない。

<8月11日>

パリオリンピックも閉会式か。日本も人口が急激に減少しているのに、努力は超人的だと思うが、スポーツエリートが他国開催で最高の成績だとは言うものの、これでは退廃の前の栄華のような複雑な気持ちである。これも私自身が結婚難孤独死状態で子供も出来ないような先入観の年齢になってしまったことからの悪い心持なのかも知れない。ある程度わが身が無事でないと、日本という国の他人に対しても素直に喜べなくなる。私だけか。

<9月8日>

ふとパソコンの画面から、この文章を入れてあるファイルが目に入ってきた。現実はまだ変化を起こすことが出来ず、ひたすら勤務の休日に YouTube を中心

として、私自身の存在のアピールをし続けているのみで、その変化がまるでないのだ。だからこの文章も変化がないわけだから、本来は公表するようなことは書けないのかも知れない。だが、一般人の現実とは、どうにも変化できない繰り返しの日々そのまま、年月が過ぎていくのではないだろうか。だからこそ、事実として、一般的に変化がない。変化がない。変化がないと書き続けて、成就が難しいという現実ですっぱり入り込んでしまっている場合があるということ、上手く表現して行きたいと思うのだ。だがそれさえ下手くそなのでわかってもらえにくいかもしれない。本当は、誰か一人、若い頃などは幻想を誰か一人に重ねる情熱のような力があつたはずなのだが、それが年齢的(57)にも弱くなっているために、こうしてずるずるしているのかも知れない。

<9月20日>

職場の若手が寿退社で簡単に送別会があった。かなり久しぶりに職場のベテランの好みのタイプにアプローチもどきな事をしてみたが逃げられる。これもかなり久しぶりにマッチングアプリを再会してみようかと初めての種類のものを登録してみたが、冬のボーナスが出たら、有料のほうにして、力を入れてみようかと検討。こうしてまた同じことを繰り返し、振り出しに戻るばかりだと予測がつく。

だが、サクラではないのだろうが、何人かにいいね！のようなものをもらい、思わず有料化したくなるが、今までの上手い

なかったのが観念化していて、疲れるのでやはり冬のボーナスが出たならと、それまでは無料のまま、見学していようかと思っているところ。

<9月22日>

コロナは消えたわけではないが、マスメディアがあまり取り扱わなくなっているようだ。しかし数年前はコロナ恐怖だった。それもあって、自らの婚活が、ここでもお世話になっているが、ネットなどで、婚活について語るように、観念的マクロ的な数年を費やしたが、数日前から急に、結局以前の繰り返しなのだが、従来有名な婚活の実際多く行われている方法を再開し始めてしまった。ここでのネタ切れ回避というわけではないのだが、孤独死懸念が強くなる57歳。48歳の時に初婚が超短期離婚で裁判のほうで長引き、その後結婚詐欺被害に遭うという疲れもあってか、再開まで10年近くかかってしまった。コロナの影響もあるだろうが。そこで今日は、独身証明は平日に役所に行かねばならないので、どちらか提出の戸籍抄本のほうを、マイナンバーカードでコンビニで入手した。29日に入会面接に行く予定を立ててある。57歳という、停年が見えてきた頃に婚活再開という、どこまで諦めが悪い自分なのかと思うのも、社会の固定観念のせいだと思う。その社会の固定観念が根強くて、罪悪感のようにさえ感じてしまう57歳での婚活復帰。職場でも目をつけた相手も上手く交流できない気もするし、相手も相手を探している人のほうが気持ちが楽である。だが、それはライバルだらけだったり、私の身分によ

って激しく選別されるのも経験済みなのに。だから繰り返した。だが、どうしていいかわからない。自分自身で止まっていたら、誰も何もしてくれないのもある。みんな他人だ。当然か。自分ではない。自分しか気持ちはわからない。本当のところは。だが、10年近く、忘れていただけかも知れないが、婚活しない時期の記述も、何もしていないという記述も意味があると思っている。それだけ月日ばかり過ぎるだけなのだ。生活費を稼ぐのは大変なのに。

<10月1日>

数日前、某婚活サービスに再々入会したが、窓口の担当者が話を聞いてくれる人で気分が良かった。AI マッチングがここ10年のうちに充実して、思ったより進んでいた。プロフィールや質問100問はあっただろうか。午後3時にパソコンを開くと、活動可能にサイトになっていた。検索してみたが、この中で一人いればいいのだし、今後入会する人も合わせて、一人いれば成功だ。57歳という年齢や私の生活状況や今後で一人いるのかどうか。しかし再々スタートしたわけだ。

<10月2日>

前日、お気に入りに入れた一人に応募した。57歳の私。子供を希望すれば、37歳の人で既に20歳違い。高齢出産である。40歳で17歳差。検索からは月に3人応募できるルール。まず最初に私はどう選択したか。近場で写真優先で選んでしまった。44歳。出産は難しい年齢の人

かも知れない。ルッキズムという反面もあるが、容姿、写真写りという点。もちろんプロフィールも合わせるが、まずそういう選択をしたのを記して、事例として発表させていただきたい。この成り行きがなんらかの結婚難解決へのヒントになっていきますように。

<10月3日>

勤務休日。作戦変更。跡継ぎを考慮し、シングルマザーに応募を検討。心理の詳細は今回省略。

<10月10日>

マッチングアプリの追加の課金のないほうは、月に7名までだが全滅の可能性が高い。あと今月は21日もあるのに。課金のあるほうは、やはり課金しないと進まない仕組みのようだ。10年前の暗黒のマッチングシステムをようやく思い出しそうだ。世間の壁は高すぎる。年末調整の申請の書き込みも何書いてあるのかわかりづらい。一時間も費やしてしまったのに出来た感じがない。様々な難しさや達成できない事柄の集積でもう終わりかと思う。が、死にたくない。まだ心筋梗塞から復活したばかりだ。また寒い季節がようやくやってきた。かな？

<10月18日>

3つの婚活をアプリも含めて実行中。今しがた1つ開いたら11歳年下の人からいいね！が来ていてブロックしてから驚いたが、なぜブロックしたかというところ

が私の好みから大きく違っていたからである。これが問題である。11歳も年下からいいね！が来るなんていうのは贅沢な事なのに、しかしこれは仕方がない。感性というのか感情というのか、嫌だと思いつつながら進めるほうが失礼な事になってしまうはずだ。これは女性のほうにも言える。私など見向きもされずに何白、何千人がスルーされてきたのだろうか。私なんか一人に対しても罪悪感ががっかりが強く出る。私の罪はとても軽いと思う。強い罪人はむしろ女のほうに多いのではないかと、あえてフェミニズム全盛時代に言ってやる。私みたいなことを書く人がいないと実は世界は偏見で崩壊に向かうのだから。こう時代に染まっていたら、わかる人ははいまい。私が嫌われるだけだろう。悲しい気持ちながら有難い人だった。ルッキズムで苦労している人なのかも知れないな。

<11月4日>

いつもは、締め切りの通知が来てすぐ提出する傾向なのだが、今日は(不定休なので)今月最初で最後の連休の2日めで感覚が少し違うのもあるのか、これは日記のはずなのに毎日意識しているわけではなく、ふとパソコンの画面をみたら、11月25日が今回は締め切りだと認識すると、今回はこのところよりも多く書いているし、残り21日で変化が起きたらすごいことだが、なぜか起きる前に提出してしまおうと思った。私は多分卒業論文をはじめ、多くの提出が一番はやいのではないかと思う。その分、質は落ちたり、練られていないことの蓄積でやってきたと思うの

だが。昔クイズ番組で「早いのが取柄、岡本信人君」という番組があったが、私もそうなのだ。

というわけで、今日までのところ、婚活アプリなど3つ再開したものの、チャットに一人来たものの、無断でブロックで去ってしまった以外は全敗である。次回の3ヶ月のうちには、婚活を成功させるつもりで頑張る。今回はもう頑張らない。

